

支援先

笠間焼産地

笠間陶芸大学校事業による人材育成



図1 研究科前期展搬入(陶芸美術館にて)



図2 2年生作品展(春風萬里荘にて)



図3 1年生焼成実習(窯詰め作業)



図4 2年生卒業制作(窯詰め作業)

【内容】

本事業は、陶芸産地の新しい担い手育成及び産地作陶家の課題解決力向上を図る目的で実施しました。

○陶芸産地の新しい担い手育成

陶芸学科（1年生12名、2年生12名）・研究科（3名）のカリキュラムは表1のとおりを実施しました。また、研修の成果を発表する場として研究科前期展、2年生作品展(於：春風萬里荘)のほか、2月には陶芸美術館で卒業制作展を開催しました。

研究科前期展(9/13～18) 来場者 498名(図1)

2年生作品展(10/4～9) 来場者 660名(図2)

卒業制作展 (2/8～12) 来場者 911名

表1 各学科のカリキュラム

学科	内容(約200日 1,400時間)
陶芸学科 1年生	基礎課題、ろくろ成形課題、石膏課題、手びねり等造形課題、意匠課題、釉薬調合、焼成実習(ガス・電気・薪など)(図3)、各種講座など
陶芸学科 2年生	造形課題(5課題)、ポートフォリオ課題、各種講座、卒業制作(図4)など
研究科	前期課題、インターンシップ、各種講座、卒業制作など

○産地作陶家向け専門研修

陶芸従事者を対象に、技術力向上や課題解決力向上を目的とした専門研修を実施しました(表2)。今年度は、延べ10名がそれぞれの技術向上を目指し研修を受講しました(図5)。

表2 専門研修の科目と内容

科目	内容
成形技術	座学および実習を含む定型カリキュラムによる研修
釉薬技術	
石膏技術	
焼成技術	
総合	受講者の要望に応じたオーダーメイド型の研修



図5 専門研修（左：釉薬技術、中：総合研修、右：総合研修）研修風景

【人材育成の成果】

陶芸大学校の卒業生は、陶芸作家を目指し、独立自営したり窯元に就業したりする等、将来の笠間産地を担う人材として大いに期待されています。

専門研修においては、オリジナル釉薬の開発や、習得したロクロ技術を活用した新たな製品開発等につながっております。

○各種公募展における在校生・卒業生の受賞者一覧（令和5年）



図6 現役学生入選作品
陶芸学科2年
松尾佳代子



図7 現役学生入選作品
研究科生 金森絵美

- ・第62回 ファエンツァ国際陶芸展（イタリア）
 《入選》 吉田知世（平成30年度 研究科卒）
- ・第15回 現代茶陶展（主催：土岐市文化振興事業団）
 《入選》 李 愛琳（研究科）
- ・第10回 菊池ビエンナーレ（主催：（公財）菊池美術財団）
 《入選》 金森絵美（研究科）
 やまわきてるり（令和3年度 陶芸学科卒）
- ・セラミック・シナジー展（主催：（公財）現代美術文化振興財団）
 《入選》 金森絵美（研究科）
 やまわきてるり（令和3年度 陶芸学科卒）
 柳 星太（令和2年度 研究科卒）
- ・伊丹国際クラフト展（主催：市立伊丹ミュージアム）
 《入選》 松尾佳代子（陶芸学科2年生）（図6）
- ・R5年度県芸術祭美術展覧会
 《入選》 川澄智一（令和2年度 陶芸学科卒）
- ・Blanc de Chine International Ceramic Art Award（中国）
 《入選》 矢次美穂（平成29年度 陶芸学科卒）
- ・2024 台湾国際陶磁器ビエンナーレ（台湾）
 《入選》 金森絵美（研究科）（図7）
 陳 辛政（令和4年度 研究科卒）

基礎となった事業		令和5年度 笠間陶芸大学校事業		
担当グループ	陶芸人材G	グループ長	尾形 尚子	TEL:0296-72-0316
		特命教授	佐藤 雅之	
		特命教授	五味 謙二	
		主任研究員	常世田 茂	
		会計年度職員	根本 達志	
	窯業材料G	会計年度職員	新島 佐知子	
		グループ長	寺門 秀人	
		首席研究員	児玉 弘人	
		主任研究員	吉田 博和	

